明治維新　１５０周年記念

平成３０年度　第２回いちき串木野の歌人　萬造寺斉顕彰

黎明の地
ふるさと短歌大会集

萬造寺斎顕彰の歌碑（羽島崎神社境内）

主　　催　羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主　　管　黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後　　援　鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
　　市文化協会・　南日本新聞社・れいめい羽島協議会

題字　堂元一静 氏(書道家)

〔主な経歴〕

2003　世界水フォーラム動書大賞受賞

2005　日本書道美術院展かなの部　全日本書道連盟賞受賞

2006　　〃　　毎日新聞社賞受賞

その他各賞を受賞し、個展も数多く開く。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって　いちき串木野市長　田畑　誠一……1
選　評……審査委員長　鶴田直樹（歌人）……2
大賞および各部の最優秀賞……8
小学生の部……11
中学生の部……24
高校生の部……42
一般の部……60
留学生の部……65
応募校一覧……67

明治百五十周年記念
第二回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長　田畑　誠一

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き　文化の薫る　世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では活力ある教育・文化の振興を図り、「ふるさとを愛し、夢と志をもち、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、黎明の地羽島地区では毎年、羽島出身の歌人「萬造寺斉」先生を顕彰するため、萬造寺斉先生の墓前で先生がふるさとを思って詠まれた望郷歌を歌うなど顕彰活動を行ってまいりました。昨年は先生の没後六十年を迎えるにあたり、地域の有志の皆さんが集まって小説「緑の国へ」も出版されました。

このような中、市といたしましても、近代日本の礎を築く原動力となった薩摩藩英国留学生が命がけで出発した地でもある羽島に薩摩藩英国留学生記念館を建設し、その偉業をたたえるとともに、行政と地域が一体となって青少年の育成や地域文化の保存、地域活性化に取り組んでいるところです。

この短歌大会は、こうした歴史的背景のある羽島で生まれ育った歌人「萬造寺斉」先生を顕彰していくとともに、市民が短歌に親しみ、文化の薫るまちづくりの一環として実施しています。今年は、五月二十日から約二ヶ月の間、作品を募集したところ県内各地から二，六七五点もの作品が集まりました。集まった作品は、県短歌協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、十月十四日、いちきアクアホール多目的室において三十三名の方々が受賞されたところです。

この大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながることを期待して刊行にあたってのあいさつといたします。

選評

審査委員長(鹿児島県歌人協会会長)　鶴田直樹

昨年に続き第二回黎明の地ふるさと短歌大会に、二六七五首の短歌作品が寄せられました。作品をお寄せ下さった皆様ありがとうございます。

渡り鳥その羽ばたきの音きけばそぞろに恋し故郷の海

生涯望郷の思いを棄てなかった萬造寺斉を顕彰して始まったこの短歌大会が、この地に短歌の心を再び芽吹かせ、アコウのように深く根を張り大樹に育っていくことを願ってやみません。

応募作品はそれに答えるように、故郷に誇りを持ち、愛し、子どもたちは地域の大人たちに見守られ心豊かに育っていることが、ひしひしと伝わり感慨深いものがありました。

さて、第二回黎明の地ふるさと短歌大会大賞に輝いたのは、串木野中学校三年橋口華佳さんの次の一首です。

港から潮のかおりがただよってさのさ踊りでかきわけていく

串木野の七月の伝統行事さのさ踊り。その数千人の踊り手の中にいたのでしょうか。潮の香を踊り連がかきわけていくように感じた繊細でいて清々しい感性の歌になっています。串木野の漁師の間で歌い継がれてきた民謡「串木野さのさ」の調べと共に、伝統が串木野の子どもたちの体内に脈々と流れていることに感動しました。

次に各部門最優秀の歌を紹介します。

小学生の部　最優秀賞

ちりめんがたいりょうたいりょうおおさわぎりょうしの声が家までとどく

羽島小学校四年　楮山　仁智

羽島の漁港の大漁に沸く活気が伝わります。ちりめんは陸に上がった時、手早い作業が必要なのでしょう。手慣れた漁師さんであっても

天手古舞、それでも喜びに沸く声が家の中まで届くという臨場感あふれた魅力ある歌でした。

中学生の部　最優秀賞

群青の澄んだ海から波の声一等星が夜空を照らす

市来中学校三年　西中間　百花

群青の海と星空が美しい串木野。海に降る星の音さえ聞こえそうな一首になっています。ふるさとの海に寄せる作者の深い思いが伝わってきます。串木野の静かな夜の海の歌は新鮮な感じがします。

高校生の部　最優秀賞

じいちゃんのかたみのさんしんひきながらなつのしまかぜなみおとひびく

神村学園高等部三年　名古　真菜花

島から進学され、寮生活を送っておられるのだろうか。お爺様の三線をひけば故郷の風が吹き波音が聞こえるという。遠く離れた故郷や今は亡きお爺様とも、三線の音色がつなぐという抒情あふれた歌となっています。また、全てを平仮名表記にされたのは、おじいさまへの優しい思いからだったのでしょう。

一般の部　最優秀賞

潮の香を含む風吹くこの島に寡婦長かりし母が筬音

石原百合子

女手一つで機を織って、子どもたちを育て上げたお母様の人生が歌に込められている。ふるさとを思えば、いつも聞いていた母の筬音が聞こえてくる。潮の香と筬音、五感に届く調べの美しい歌です。

留学生の歌から一首。

五千年月日流れる山水はすこぶる佳なり我が中華かな

神村学園高等部二年　丁　博思

母国を離れて学びながら、歴史ある母国への思いを歌に込めています。羽島から旅立った薩摩藩英国留学生たちも苦難の中で、こうした母国への誇りがなければ乗り越えられなかっただろうという思いが重なりました。鹿児島で学びいつか母国の力となり、両国の懸け橋となることを願います。

以上大賞だけしか触れることができませんでしたが、応募作どの歌も故郷への思いがあふれ、あらためて鹿児島に暮らす幸せを胸に刻みました。

最後に、いちき串木野市をはじめ関係各位、夏休み前のご多忙の中応募して下さった各学校の先生方に熱く御礼申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一　趣旨

本市が輩出した歌人、萬造寺斉氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「人が輝き　文化の薫る　世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し　夢と志を持ち　心豊かでたくましい人づくり」の体現を目指します。

二　主催等

(1)主　催　羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
(2)主　管　黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
(3)後　援　鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三　応募作品数について

(1)小学生の部　五百四十八首
(2)中学生の部　千四十四首
(3)高校生の部　九百五十五首
(4)一般の部　百二十八首

四　各賞について

【入　賞】

大　賞　全部門の中から1名
最優秀賞　各部門1名（小、中、高、一般の4部門）
優 秀 賞　各部門1名　〃

市長賞　各部門1名（小、中、高、一般の4部門）
県歌人協会賞　各部門1名　〃　〃
選者賞　各部門1名
教育長賞　各部門1名　〃　〃
南日本新聞社賞　各部門1名　〃
留学生賞　全部門の中から4名
特選　小　十九首　中　十六首　高　十八首　一般　十七首
入選　小　三十三首　中　三十首　高　二十七首　一般　十六首

五　表彰式について

日時　平成三十年十月十四日（日）午後十三時三十分から
会場　いちき串木野市アクアホール　多目的室
式順
　開会のことば
　実行委員会あいさつ……川口勝則会長
　来賓・主催者紹介
　表彰
　選評……鶴田直樹審査委員長
　閉会のことば

六　選者（予備審査及び本審査）

鶴田　直樹
　所属等　県歌人協会会長　にしき江主幹　読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表　彰　平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

鏑流馬　みどり
所属等　県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長　歌誌「黎明」編集委員・運営委員
表　彰　平成十五年平安神宮賞受賞

黒瀬　圭子
所属等　県歌人協会会員　にしき江編集委員

桐野　直子
所属等　県歌人協会会員　山茶花編集委員
表　彰　平成二十六年山茶花社新人賞　平成二十九年山茶花社山茶花賞

寺地　悟
所属等　県歌人協会会運営委員　南船編集委員　日本歌人クラブ鹿児島県監事
表　彰　平成四年鹿児島新報文学賞　平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

高城　美紀子（一次選者）
所属等　県歌人協会会員　華短歌会編集委員
表　彰　昭和五十八年新春文芸（南日本新聞社）一席入選　昭和六十一年新年歌会始佳作入選
昭和六十二年東郷賞（結社賞）受賞
作　品　歌集「吾亦紅」（平成七年）　歌集「木の花草の花」（平成十五年）

泊　興子（一次選者）
所属等　県歌人協会運営委員　鹿児島アララギ編集委員
表　彰　平成二十六年度鹿児島アララギ年度賞

大賞・各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会　大賞】

港から潮のかおりがただよって
さのさ踊りでかきわけていく

いちき串木野市立串木野中学校三年　橋口　華佳

【小学生の部　最優秀賞】

ちりめんがたいりょうたいりょうおおさわぎりょうしの声が家までとどく

いちき串木野市立羽島小学校四年　楮山　仁智

【中学生の部　最優秀賞】

群青の澄んだ海から波の声一等星が夜空を照らす

いちき串木野市立市来中学校三年　西中間　百花

【高校生の部　最優秀賞】

じいちゃんのかたみのさんしんひきながらなつのしまかぜなみおとひびく

学校法人神村学園高等部三年　名古　真菜花

【一般の部　最優秀賞】

潮の香を含む風吹くこの島に寡婦長かりし母が筬音

鹿児島市　石原　百合子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会長賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

水田にうつるぼくらと青空をこわしてのびろこの早苗たち

いちき串木野市立市来小学校五年　竹下　颯

【市長賞】

なつまつりくしきのさのさみていたらぼくもみんなとおどっていたよ

いちき串木野市立旭小学校一年　大久保　咲哉

【県歌人協会賞】

およいだよプール大会バッシャバシャあがったあとは大きなはく手

いちき串木野市立市来小学校二年　栗山　姫羅

【選者賞】

自転車で登り切ったらぼくの背に夕日に映えるきんこう湾が

姶良市立西姶良小学校六年　山本　康貴

【教育長賞】

あるのかなかんむりだけのおくふかく長生きできるひみつの薬草

いちき串木野市立市来小学校四年　桃北　花温

【南日本新聞社賞】

羽島にて覚悟を決めて英国へ黎明の地に今風が吹く

いちき串木野市立照島小学校六年　下園　樹乃

【特　選】

ふるさとの海見るときにあらわれる夕日に向かう一本道

春風にふかれて思う留学生あつき思いを受けつぐわたし

田植え時期なえにすいてきつきながらけいトラックではこばれるなえ

てるしまのすなはまはしるはまけいばたたいてはしるきょうそうだよ

赤い目でわたしを見ているうさぎたちふわっふわっとわたげのようだ

青空ににゅうどうぐもがもくもくと大きくなってぼくを見ている

つまぐろのオレンジ色がとびたったわたしの手から青い空へと

青い空かねの音ひびく大里にとらもにげるよ七夕おどり

羽島から勇気をもって旅立った留学生の思い引きつぐ

でんとうの川上おどりかねの音かさなりひびく虫のなく声

あぜ道に笑顔ですわる田の神さあ黄金のいなほ遊ぶ子見つめ

かたつむりあめがふるのでぼくよりもうんどうじょうであそんでいるよ

いちき串木野市立羽島小学校五年　橋野　太志

いちき串木野市立羽島小学校六年　中島　芯

いちき串木野市立串木野小学校六年　橋之口　颯太

いちき串木野市立串木野小学校六年　森　柚芭

いちき串木野市立市来小学校二年　一ノ瀬　紗羽

いちき串木野市立市来小学校二年　植村　光陽

いちき串木野市立市来小学校二年　江口　真美

いちき串木野市立市来小学校三年　北ノ園　浬功

いちき串木野市立市来小学校六年　奥ノ園　芽依

いちき串木野市立川上小学校四年　橋本　鈴佳

いちき串木野市立川上小学校四年　小牟田　紗南

いちき串木野市立荒川小学校一年　萬福　清史円

きれいだなピカピカ光るホタルたち荒川川はイルミネーション　いちき串木野市立荒川小学校四年　邑上　樹愛

ぼらんてぃあちいきのひととととうげこうなんじゅうねんごじぶんのやくめ　いちき串木野市立旭小学校一年　堀　玲央

金山の山にひびくよほる音がぼくの心に聞こえてくるよ　いちき串木野市立旭小学校三年　高原　健

あせをかき学校がえりのくだりざか青い海からなつの海風　指宿市立山川小学校二年　新村　直弘

ほたるがねよるにはっぱでとまってたおはかのそばでひかっていたよ　指宿市立山川小学校二年　樋園　大耶

あさおきてまどをあけたらいいにおいわたしの町のかつおぶしだよ　指宿市立山川小学校二年　篠原　心遥

この町の海には船がぞろぞろといつかはぼくのふねならばせる　指宿市立山川小学校四年　浜村　匠創

【入　選】

はしまざき白いとりいがおかえりをいつでもぼくを見守っている　いちき串木野市立羽島小学校三年　大井　孝太郎

ふるさとの伝統行事竹太鼓受けつぐ心がひびかせる音　いちき串木野市立羽島小学校六年　下永田　頼翔

はまけいばいろんなうまがあきらめずえがおいっぱい春の風景　いちき串木野市立串木野小学校四年　網屋　恒心

若者が世界を見渡し英国へ私と二才差拓いた未来　いちき串木野市立串木野小学校六年　船蔵　あこ

てらされた羽島の海は宝物私も君も大好きな場所

いちき串木野市立串木野小学校六年　有馬　彩華

あら川の清流に宿るホタルたち光るおしりは美しきものなり

いちき串木野市立串木野小学校六年　川畑　純愛

ダンダダン音がにぎわう夏祭りなまぬるい風もふきとんじゃう

いちき串木野市立串木野小学校六年　横路　壮生

二千人心ひとつにさのさまう思いよ届け大海原に

いちき串木野市立串木野小学校六年　片山　華孔

串木野市港さかえるマグロ漁１人１人がライバル同志

いちき串木野市立串木野小学校六年　甲斐　義規

えぐちはま貝がらいっぱい見つかったまき貝二まい貝ぼくのともだち

いちき串木野市立市来小学校二年　上原　直太郎

オレンジのすかしゆりを見つけたよりょうてに二本ラプンツェルのよう

いちき串木野市立市来小学校二年　髙野　莉愛

しいくごやみんながやさいをもってきてうさぎはいっぱいもぐもぐたべる

いちき串木野市立市来小学校二年　原口　泰瑚

市来はねまぐろラーメンおいしいよスープの中でまぐろがおよぐ

いちき串木野市立市来小学校三年　石神　華音

えい国にいのちをかけていったのささつまのために日本のために

いちき串木野市立市来小学校三年　藤田　大輝

水泳でけのびバタ足水をけるすぐ足がつく泳ぎきりたい

いちき串木野市立市来小学校四年　石堂　未遥

地引きあみうみのめぐみをわけあおう海のむこうへつなをひいてく

いちき串木野市立市来小学校四年　松﨑　蒼太

えんがわでほしをながめてすいかたべきらきらひかる夜のひととき

いちき串木野市立市来小学校五年　中夷　絢耀

正座して市来カルタで練習しふるさとを知る子どもたちわれ
いちき串木野市立市来小学校六年　宇都　愛里

おぎょんさあ大人も子どもも声だしてみんなで盛り上げいちきの伝統
いちき串木野市立市来小学校六年　大久保　里穂

学校でうるさく聞こえるせみの声耳をすませばおもしろ合唱
いちき串木野市立市来小学校六年　岩村　珊利

うさぎさんぼくのかおみてちかづいたくちをもぐもぐはやくちょうだいと
いちき串木野市立荒川小学校一年　大迫　悠人

森の中虫がわいわいおどってるにぎやかだからわたしもおどる
いちき串木野市立荒川小学校三年　中野　心杏

とれたてのサワーポメロのあのにおい気持ちやすらぐすっぱいかおり
いちき串木野市立冠岳小学校六年　谷口　円花

あいさつでえがおとどけるわたしたちちいきのひともえがおになるよ
いちき串木野市立生福小学校二年　村田　彩絆

赤色でルビーのようなかがやきで海のほうせき本マグロだな
いちき串木野市立生福小学校五年　西田　佑亮

あつくても畑仕事にせいを出すちいきの人のがんばるすがた
いちき串木野市立生福小学校五年　村田　祐絆

この町をいずれいつかは思い出す我のふるさといちき串木野
いちき串木野市立生福小学校六年　内村　ひな

とうちゃんがそだてたおくらうまかったやっぱりとうちゃんにほんいちだな
指宿市立山川小学校一年　今村　光我

あおいそらにゅうどうぐもとくさすべりぼくがトナカイとうちゃんサンタ
指宿市立山川小学校一年　髙橋　優人

あせをかくあつい夏にはかぶとむしいっぱいいるよよるのきのした
指宿市立山川小学校二年　藤田　結衣

海くんとかけっこしたよまけちゃったもう一回だまたまけちゃった

なつやすみいものはこづめおいもあらいてつだいしてるわたしのあせ

ぼうおどりおしえてくれるこうがく年ぼくも上手におしえてみたい

【佳　作】

かえりみち赤くて丸いみかんかなはしまの海にしずんでいった

ふるさとにとんぼやちょうがとびまわる虫あみもっておいかける夏

おきのしまおさるがいっぱいおさるの家族何人いるのかな

白浜の露天風呂から見る夕日海まで染まる真っ赤な夕日

新たな国を目指したび立つ夜明け前羽島で決意し旅立つ若人

くし木野のさのさまつりはえがおでねおどりもあるよたのしいまちだ

さつまあげ一口たべるととまらないえがおいっぱいみんなしあわせ

きらきらと夕日がしずむ地平線ぼくの顔までオレンジ色に

指宿市立山川小学校三年　塩手　采花

指宿市立山川小学校三年　福里　芽生

指宿市立山川小学校四年　西　晴希

いちき串木野市立羽島小学校二年　三原　悠暉

いちき串木野市立羽島小学校二年　栫　陸斗

いちき串木野市立羽島小学校三年　藤﨑　善士

いちき串木野市立羽島小学校五年　松元　識穏

いちき串木野市立羽島小学校六年　鮫島　虎太郎

いちき串木野市立串木野小学校四年　青木　武蔵

いちき串木野市立串木野小学校四年　肝付　健太

いちき串木野市立串木野小学校六年　末満　匠

ふるさとはほかとはちがうなつかしさでもそのなかにわすれぬおもい
串木野のきれいな海をまぐろまうなんてきれいな水しぶきだな
海原の明日をのぞむサンセット未来を創るいちき串木野
月曜日これからはじまる今日の朝大人は仕事ぼくは学校
旗なびく灯台の先汽笛鳴る紙テープ張り出港の時
くしきのはしぜんゆたかなうみや山すずしげなかぜふきわたるとき
たのしみだちいきのひととふれあう時間私の宝わたしのふるさと
人々の希望と未来夢に見て勇気を出して英国めぐる
羽島から旅立つ人達命受けてのちの日本を育て導びく
この景色かれらも見たかはるか前留学生に想いをはせる
船乗りよ串木野というほこり持ちマグロという名の夢をめがけて
夕焼けのきんこう湾に映り込む真っ赤にそまる桜の島が
太陽に向ってのびる松の木よ砂浜かざる浜競馬

いちき串木野市立串木野小学校六年　宮前　聖汰
いちき串木野市立串木野小学校六年　橋本　漣
いちき串木野市立串木野小学校六年　田畑　侑眞
いちき串木野市立串木野小学校六年　永原　陽煌
いちき串木野市立串木野小学校六年　益山　昊大
いちき串木野市立串木野小学校六年　丸田　心愛
いちき串木野市立串木野小学校六年　荒牧　咲来
いちき串木野市立串木野小学校六年　橘木　蓮仁
いちき串木野市立串木野小学校六年　冨永　将瑞
いちき串木野市立串木野小学校六年　森田　遥香
いちき串木野市立串木野小学校六年　濵嵜　心太朗
姶良市立西姶良小学校六年　日髙　聖凪
いちき串木野市立照島小学校六年　鈴木　悠仁

ふるさとよ帰って来たらおかえりと皆の笑顔つつみこまれる
いちき串木野市立照島小学校六年　浦田　美織

だいすきないちきのよぞらみあげるとほしがキラキラうさぎのつきが
いちき串木野市立市来小学校一年　藤山　叶歩

とさきの海きらきらかがやくいかがつれちゃう今日のごはんお魚いっぱい
いちき串木野市立市来小学校二年　浜田　真子

ミニトマト赤い顔してわらってる大きくそだてわたしのトマト
いちき串木野市立市来小学校二年　上野　小椛

ミニトマトみんなが赤いよ日にあたり水をあげたら大きくそだつ
いちき串木野市立市来小学校二年　大茂　乃彪

めだかがねたまごをうんだつぶつぶだやさしくみまもるおやめだか
いちき串木野市立市来小学校二年　太田　ゆず

めだかたちなかよく元気におよいでるいっぱいあそんですこしやすもう
いちき串木野市立市来小学校二年　奥ノ園　彩世

めだかたちゆったりおよぎえさをまつおんがくきいて上にのぼるよ
いちき串木野市立市来小学校二年　永山　一颯

しいくごやうさぎたちがそばによるやさいをまってるぼくのともだち
いちき串木野市立市来小学校二年　東　怜瑠

つけあげをかぞくでたべるよいちき町ふっかふっかでふとんのように
いちき串木野市立市来小学校二年　三薗　大翔

しいくごやうさぎがいっぱいいるんだようさぎはかわいいわしわしわしとえさたべる
いちき串木野市立市来小学校二年　吉村　歩愛

里がえり夏にかえって空みてたそしたら花火あがってきえた
いちき串木野市立市来小学校三年　重信　葵依

夏休み海にいったら青い海すなば遊びでおしろができた
いちき串木野市立市来小学校三年　今井　洸太

ラーメンはだいこうぶつだおいしいな食べるとあついやけどだやばい

夏にある牛やとらや鳥たちがおどって歩く七夕おどり

ピンク色千本ざくらかこんでるかんのんが池春の楽しみ

おいしいな市来のポンカンうますぎるくせになりそうしあわせ気分

日の入だ東シナ海オレンジにそまりきれいだずっとながめる

高い波おしよせるしお市来はまこちゆたかな波のすずしさ

妹をサマーフェスタに連れて行きよろこばせたいなうちあげ花火

すなはまでひそかに聞こえる波の音風を感じに今日もまた行こう

海の町まぐろもおどる串木野やいっぱいとれてきょうもばんざい

いろいろな文化の祭りみんなでねひろめていこう大切にして

せみの声みんみんみーんとこだまする緑色の木につかまりながら

カラコロとげたをひびかせお祭りへみんな笑顔だ夏の思い出

市来の子みんなみらいをもっているだからぜんいんとてもたくましい

いちき串木野市立市来小学校三年　濵松　和夏菜

いちき串木野市立市来小学校三年　小橋口　珠央

いちき串木野市立市来小学校四年　岸上　千奈乃

いちき串木野市立市来小学校四年　萩原　芽希

いちき串木野市立市来小学校四年　渕上　琉玖斗

いちき串木野市立市来小学校四年　鶴窪　千博

いちき串木野市立市来小学校四年　永田　侑

いちき串木野市立市来小学校四年　水流　千尋

いちき串木野市立市来小学校四年　萩原　健太朗

いちき串木野市立市来小学校四年　南　愉湛

いちき串木野市立市来小学校五年　中間　いぶき

いちき串木野市立市来小学校五年　窪田　真紀

いちき串木野市立市来小学校六年　西中間　康汰

昔から伝わるお祭りたくさんだみんなが愛す市来串木野

ぎおん祭朝からみんなえんそうで夜になったら打ち上げ花火

海のむこうへ船でわたりてイギリスへ帰国しいろんな技術を教へる

おはなみはかんのんが池おすすめださくらひらひらまいおりてくる

きれいだな大きな花火が空いっぱいやっぱり夏はぎおん祭り

ぎおん祭り夜になったら大さわぎ屋たいや花火いいことあるよ

真夏の日ぎおん祭りを盛り上げて真夏に太こをひびかせましょう

さいこうだみんな楽しいぎおん祭りもっと遊んではしゃぎまくる

ぼくたちのいちき串木野みどころはあいさつあふれ元気なぼくたち

あったかいおちゃのはもむてをまわしはっぱパリパリおちゃのかおり

おばあちゃんやさしくえがおでいつまでも体に気をつけ元気でいてね

うさぎさんにんじんきゃべつおいしそうあしたわたしがもってくるからね

あさがおにみずあげしたらげんきだねあかあおむらさきたくさんさいてね

いちき串木野市立市来小学校六年　岸上　優理奈

いちき串木野市立市来小学校六年　山口　美釉

いちき串木野市立市来小学校六年　桃北　光基

いちき串木野市立市来小学校六年　新屋敷　奈々美

いちき串木野市立市来小学校六年　内田　泰誠

いちき串木野市立市来小学校六年　溜池　妃花

いちき串木野市立市来小学校六年　赤﨑　釉心

いちき串木野市立市来小学校六年　東　龍玖

いちき串木野市立市来小学校六年　福留　琉聖

いちき串木野市立川上小学校一年　田淵　沙恵

いちき串木野市立川上小学校五年　吉留　京

いちき串木野市立荒川小学校一年　鬼塚　奈々美

いちき串木野市立荒川小学校一年　山下　愛心

ピカピカのおしりになっておどりだすなかまといっしょにワンツースリー

いちき串木野市立荒川小学校二年　邑上　莉愛

荒川はほたるのみやこまい上がるほんのり光るほたるのダンス

いちき串木野市立荒川小学校五年　滿園　奈々

留学生が十九人英国へ世界のすごさ学んできたよ

いちき串木野市立荒川小学校六年　徳永　凌太

荒川にホタルたくさん住んでいるピカリと光る星のまたたき

いちき串木野市立荒川小学校六年　中野　白百合

あかいやねわたしのすきながっこうだははもかよったあさひしょう

いちき串木野市立旭小学校一年　高原　みこと

れいめいの地をあとにして未来に夢を与えた十九人

いちき串木野市立旭小学校四年　中薗　ひなた

すきとおるあたたかな風緑色の山にかこまれいちき串木野

いちき串木野市立旭小学校五年　楠生　未来

さつまあげはんぱないってそのままでもおいしすぎるってはんぱないって

いちき串木野市立旭小学校六年　峯　悠人

西だけの自ぜんのめぐみかんじつつ未来へ向けて羽ばたく子たち

いちき串木野市立生福小学校三年　宇都　友月姫

つけあげのうまみとあまみほんのりとずっと口にのこりつづける

いちき串木野市立生福小学校四年　松田　咲羽

さわやかであまずっぱくておいしくて最高だよねサワーポメロ

いちき串木野市立生福小学校五年　吉木　佑希菜

ともだちとかおをあらったばしゃばしゃとあせとおみずがぴかっとひかった

指宿市立山川小学校一年　前薗　心琴

おとうとがいっぱいなくよだっこしてママもとられたわたしもだっこ

指宿市立山川小学校一年　西　結希菜

たい風が近くをとおって大あばれクーラーこわされせん風きの夏

えんてんか太ようぎらぎらてりつけるあせがかがやくぼくのほっぺた

かぶと虫おじいちゃんといっしょにとりに行ったよまた行きたいな

海に行きざぶーんといってリレーをし行って帰ってまたくるからね

海のなみぼくといっしょにかけっこだかつかまけるかさあしょうぶ

すなむしのすなはあついよゆげでるよきもちいいからはいっていたい

指宿市立山川小学校二年　西岡　晴

指宿市立山川小学校二年　浜村　太創

指宿市立山川小学校二年　福島　哲也

指宿市立山川小学校三年　山崎　夢佳

指宿市立山川小学校三年　西　梓佐

指宿市立山川小学校三年　樋口　瑛映

中学生の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

海わたり引っ越してきた串木野にまぐろのようにわたしは進む

いちき串木野市立串木野西中学校三年　中村　楓

【市長賞】

地元出て思い出すのは風の音都会の音は人の足音

屋久島町立岳南中学校二年　岩川　拓斗

【県歌人協会賞】

授業中遠く聞こえる円周率空は真っ青頭は真っ白

いちき串木野市立串木野中学校二年　和田　晴海

【選者賞】

ふるさとの伝統のあるお祭りで今年の夜も孤独を味わう

いちき串木野市立串木野西中学校三年　濵田　翔

【教育長賞】

懐かしき匂いに回る走馬灯残っているかな失くしたボール

姶良市立帖佐中学校二年　松藤　大悟

【南日本新聞社賞】

鶴の声冬の季節の目覚しでかわいた空にひびきわたる

出水市立出水中学校二年　浦﨑　葵

【特　選】

青空につつまれながら大勢の歓声届く浜競馬あり
いちき串木野市立串木野西中学校三年　永島　愛莉

水田に写り澄んでる青空を母とながめた夏のあぜ道
出水市立出水中学校二年　土川　菜々

特攻隊出水の地から飛びたったもう二度としない今も未来も
出水市立出水中学校二年　池島　悠羽

思い出の幼き友の顔うかぶ霧にしずんだ遠いふるさと
屋久島町立岳南中学校二年　荻野　響

ふるさとをとうとう出る日悲しみと思い出いっぱい胸からあふれた
鹿児島市立郡山中学校二年　宇都　琉希

おはようは毎朝かわす合言葉向日葵のようあなたの笑顔
いちき串木野市立市来中学校一年　溜池　佳奈

ドンキャンキャン太鼓と鐘の響き合い踊る姿に心も踊る
いちき串木野市立羽島中学校一年　久保　明寛

ちりちりとやさしくゆれる風鈴とつよく鳴いてるあの幹の蟬
姶良市立帖佐中学校二年　山下　凜竜

台所トントン響く母の音いつしか私まねしたくなる
姶良市立帖佐中学校二年　藤﨑　結羽

時が経ちそれでも変わらぬふるさとの不思議なほどに澄んだ夏空
姶良市立帖佐中学校二年　櫻木　周子

ふみ入れる未来の一歩黎明で十九のいしずえかたし
いちき串木野市立生冠中学校一年　軍原　隼斗

浜競馬馬もみんなもかがやいて潮のにおいがああなつかしい
いちき串木野市立串木野中学校一年　潟山　琴音

帰り道小さな悩みに苛まれ少しはにかみまた歩きだす　いちき串木野市立串木野中学校二年　川口　歩輝

さざなみが馬のこどうを振るわせる海競馬こそ串木野のほこり　いちき串木野市立串木野中学校三年　冷水　魁斗

浴衣着ていつもの場所に待ち合わせ沈む夕日と高なるこ動　いちき串木野市立串木野中学校三年　寺岡　莉央

照島の砂が飛びちり走る馬ゴールめがけて砂浜走る　いちき串木野市立串木野中学校三年　石原　雅紳

【入　選】

ふるさとのひかりかがやくほたるたち荒川川にふる流れ星　いちき串木野市立串木野西中学校二年　羽根田　唯生

ふるさとの伝統豊かなお祭りで青春できない孤独の夜　いちき串木野市立串木野西中学校三年　猪之鼻　駿太

夏祭りいろんな恋がいりまじるみんなの恋を見守る花火　出水市立出水中学校二年　青木　裕哉

出水の田毎年冬にツルがきていつもと違う目覚し時計　出水市立出水中学校二年　岡田　知紘

つるのまち出水のほこりのなきごえがきこえてくると冬がはじまる　出水市立出水中学校二年　森田　蓮

たいようにむかってのびるひまわりがいつものみちをてらしてくれる　出水市立出水中学校二年　田上　敬志朗

新学期桜の木々が喜んでいるささやきながらゆっくりゆれる　出水市立出水中学校三年　遠竹　真琴

一年の健康願い家周る一家一曲熱唱のとき

ボールける暑さに負けず走る俺どんどん進むチームの絆

祖母の家小遣いかせぎに草むしり風と流れる風鈴の音

森林の近くで遊ぶぼくと兄それを見守る親代わりの樹

帰りたいそう思ったら電話きて帰っておいでとやさしい声が

木々を見て緑のこもれび感じたらさえぎってくるせみたちの声

海岸でくりかえされる波の音せいしゅん色に染まる夕焼け

押し寄せる海岸線に白波が跡をつけてはふと引いてゆく

何よりも愛情そそいだ闘牛に祈れ必勝灼熱バトル

校庭で放り続けた砲丸よいつしか届け全国制覇

島唄のリズム奏でる波の音あの日の夜空忘れはしない

青春はしゅわっとはじけるソーダ水我がふるさとのなつかしい日々

屋久島町立岳南中学校一年　笹川　結月

屋久島町立岳南中学校三年　細川　爽楽

鹿児島市立郡山中学校二年　峯元　伶

鹿児島市立郡山中学校二年　大迫　啓史

鹿児島市立郡山中学校二年　長島　巧真

いちき串木野市立市来中学校二年　巡　幸樹

いちき串木野市立市来中学校三年　川井田　汐梨

いちき串木野市立羽島中学校三年　江畑　大星

姶良市立帖佐中学校二年　美村　響

姶良市立帖佐中学校二年　大原　颯太

姶良市立帖佐中学校二年　有馬　未來

姶良市立帖佐中学校二年　西屋敷　好

帰り道渡る橋には夕暮れの真っ赤な夕日が思い出染める

今はなき我と友の畔道追憶す反射光散るコンクリートの群れ

最愛の両親がいるその場所がぼくにとってのふるさととなる

草原で笑いころげた夏の日々「また帰るよ」とはかない約束

いつもより安心する場所落ち着くなばあちゃんいれば楽しくなるな

黄昏の町にきこえるふえの音夏と感じるきおくの破片

コンクールロ痛めながら楽器吹く最高の音届けるために

父と僕二人で歩いた蛍の道かすかに残る父との思い出

夏の夜大通りの男たち男をかけてつなを引き合う

太陽がサンサンと照る帰り道野菜の頬にも汗がしたたる

「おすそわけ」受ける袋に感じるは手の温もりと光るポンカン

姶良市立帖佐中学校二年　岩﨑　皓世

姶良市立帖佐中学校二年　長野　倫季

姶良市立帖佐中学校二年　村岡　幹基

姶良市立帖佐中学校二年　内野　日愛

姶良市立帖佐中学校二年　濵本　夏央

いちき串木野市立串木野中学校二年　米倉　愛菜

いちき串木野市立串木野中学校二年　尾崎　美空

いちき串木野市立串木野中学校二年　木場　海渡

いちき串木野市立串木野中学校二年　大囿　陽

いちき串木野市立串木野中学校二年　橋之口　あやね

いちき串木野市立串木野中学校三年　宍野　詩萌

【佳　作】

ふるさとは潮風かおる白浜の祭りにぎわう串木野の町
いちき串木野市立串木野西中学校一年　川宿田　莉芹

ふるさとは今はきらいではなれるとなつかしくなり帰りたくなる
いちき串木野市立串木野西中学校一年　黒木　瑠莉

あの時に作ってもらうおむすびのうすい塩味母おやの味
いちき串木野市立串木野西中学校一年　室屋　三佳

しゅく題もじぶんでできぬアホなんでふるさとからも追い出されます
いちき串木野市立串木野西中学校一年　植戸　颯大

さのさ祭り串木野の風に乗りながら串木野の伝統未来へ続く
いちき串木野市立串木野西中学校一年　橋之口　かなた

車窓から流れる景色ふるさとの山のみどりとだんだん畑
いちき串木野市立串木野西中学校二年　栗元　爽羽

気づいたよ地元の自然がインスタ映えどこにも負けない映えスポット
いちき串木野市立串木野西中学校二年　早川　悠花

家々からみそ汁かおる帰り道自然と足は家路へ急ぐ
いちき串木野市立串木野西中学校二年　冨永　かりん

青空のもとで遊ぶ元気な子あせばむシャツに季節を感じて
いちき串木野市立串木野西中学校二年　林　寿里

夏の夜さのさ祭りに人集い市中流しでつながる心
いちき串木野市立串木野西中学校三年　蛯原　隆太

夏まつり愛する人と手をつなぐみんなの視線すごく痛い
いちき串木野市立串木野西中学校三年　新地　叶望

串木野の町に引っ越ししてみれば笑顔あふれる串木野の輪
いちき串木野市立串木野西中学校三年　林﨑　功志

串木野のさのさ祭で友達とおそくまでいて想いをあかす

年一回市民が集う夏祭りダンスもはくねつ皆もはくねつ

夏の夜笑顔で光るアーケード心も踊る市中流し

浜競馬馬が多数で風を切る飛び散る砂が紙ふぶきのよう

浜競馬みんなわいわい盛り上がりキレイな海を目の前にして

夏始めにぎやかになるアーケード闇夜の中に明かりともせば

串木野のさのさ祭りの本祭で一体化する市中流し

風呂あがりほてったからだ冷やすべく羽島の町を歩きつづける

友達の横顔見れば茜色水平線に沈む夕日のよう

友だちと泣いて笑った学び舎は今となってはわたしの故郷

帰り道夕日にてらされ足止まる海辺からみるあかね色の空

夏祭り暗やみ照らす君の恋見守っている花火の光り

ふるさとの歴史感じるこの街のことを知るたび成長する僕

いちき串木野市立串木野西中学校三年　和田　陽夏瑠

いちき串木野市立串木野西中学校三年　有川　玖怜亜

いちき串木野市立串木野西中学校三年　木野　美雪

いちき串木野市立串木野西中学校三年　南新　乃愛

いちき串木野市立串木野西中学校三年　西　雄成

いちき串木野市立串木野西中学校三年　神野　琉歌

いちき串木野市立串木野西中学校三年　豊福　舞

いちき串木野市立串木野西中学校三年　中野　聖鳴

いちき串木野市立串木野西中学校三年　鍋倉　璃帆

いちき串木野市立串木野西中学校三年　前野　華

いちき串木野市立串木野西中学校三年　宮脇　陽向

出水市立出水中学校二年　岡本　龍聖

出水市立出水中学校二年　櫻井　蒼海

出水市の自然の川にゆらゆらと漂う影は楽しげなあゆ

つるがくるふゆになったらつるがくるそれがわたしのひとつのじまん

ふるさとのじまんと聞かれそのとたん私はそくとうつるの渡来地

悲しいな出水の地から特攻隊受けつぎます今までの伝統

雨上がり青々とした若葉にひかるしずくにみとれた私のふるさと

晴れた日の自転車通る田んぼ道一緒に行く自分のかげ

出水の地沈みかけてる夕日背に旅立つ鶴は北薩に鳴く

毎年のツルが来る時期にぎやかで世話して地域の絆深まる

故郷の親達は今何してるそう思いながら実家へ向かう

冬くるとつるがたくさんやってくるシベリヤからのおくりもの

マチテラス出水のまちが光る夜竹灯ろうはギネス認定

竹とうろう光をだして町照らすあまり見れない夜の風景

肝だめしみんなでいった東光山青ざめたのは男子だけでした

出水市立出水中学校二年　山﨑　英司

出水市立出水中学校二年　内城　花

出水市立出水中学校二年　立花　凜夏

出水市立出水中学校二年　塩盛　稜太

出水市立出水中学校二年　二反田　千尋

出水市立出水中学校二年　丸田　葵依

出水市立出水中学校二年　佐々木　陸翔

出水市立出水中学校二年　溝口　志歩

出水市立出水中学校二年　松元　楓

出水市立出水中学校二年　丸畑　紗耶

出水市立出水中学校二年　山本　菜々華

出水市立出水中学校二年　斉田　千実

出水市立出水中学校二年　久富　愛心

小学生歩く姿がなつかしい小さな足で東光山へ

朝が明け北へ去りゆくつる達よ「寒くなったらまたおいで」

夏休み勉強してるこの僕と畑になってるたくさんのナス

新しい仲間を迎え全員でラストチャンスだ結果を残す

クラスがえ年最初のたのしみだだれがいるかなクラスメートは

夏休みすることたくさんありすぎる勉強なんかあとまわしだな

たんぽぽの子どもが腕にとびのって眠気と共に春を知らせる

屋久島の自然を求めて都会から故郷に帰るふるさとの人

つかれた日ばあちゃんの煮物こいしくなる食べたいけれどラーメンすする

屋久島の伝統行事集落で家をまわって祝い申そう

夏の夜あみ戸に集まるながし虫電気を消してもいなくならない

ははおやのあいじょうそそいだつのまきはひとくちほおばりふるさとおもう

ふるさとよ四季とりどりの色を見せみんなの笑顔ふくらませてる

出水市立出水中学校二年　武本　美咲

出水市立出水中学校二年　羽月　琴乃

出水市立出水中学校二年　古川　晴喜

出水市立出水中学校三年　太田　詩歩

出水市立出水中学校三年　角中　叶望

出水市立出水中学校三年　濵島　早彩

出水市立出水中学校三年　福田　純菜

屋久島町立岳南中学校一年　日髙　廣太

屋久島町立岳南中学校一年　岩川　侑和

屋久島町立岳南中学校一年　岩川　心莉

屋久島町立岳南中学校一年　沼田　そらみ

屋久島町立岳南中学校一年　深堀　秀斗

屋久島町立岳南中学校二年　山本　佐知代

目が合えば言葉を交すこの町が私のふるさとここが一番

ふるさとの色やにおいをわすれないあと一年でお別れのとき

水族館がほしい海に行きなと言われた日悔しいけれどやっぱいいとこ

竹を打ちリズムにのって音奏ではっぴ輝く竹太鼓かな

六月灯ほんのり浮かぶ灯籠は幻想的で大好きな景色

なつかしい自然のかおり川の流れ朝昼晩の虫の鳴き声

青々と田んぼの稲が育まれ川には小さき光が灯る

いっが故郷人の優しさ日本一笑顔あふれる西郷どんの街に

ふるさとがアニメの聖地になりました観光客がめっちゃ増えてる

やすらぎは冠岳の温泉で湯船につかるその瞬間だ

ざわざわと吹上浜が音をたて市来にひびくメロディーのよう

海辺から夏の訪問感じ取り私の心パーティー気分

ゆらゆらと桜の花弁池泳ぐ散りゆく赤は夏の前ぶれ

屋久島町立岳南中学校二年　益山　真菜

屋久島町立岳南中学校三年　永留　千歳

屋久島町立岳南中学校三年　中原　未晴

鹿児島市立郡山中学校二年　山口　翔

鹿児島市立郡山中学校二年　末吉　陽菜

鹿児島市立郡山中学校二年　古川　紗凪

鹿児島市立郡山中学校二年　嶽　菜々美

鹿児島市立郡山中学校二年　上野　真凛

鹿児島市立郡山中学校二年　北野　翼

いちき串木野市立市来中学校一年　飯山　蓮聖

いちき串木野市立市来中学校一年　三窪　楓

いちき串木野市立市来中学校二年　石原　彩恵

いちき串木野市立市来中学校二年　仮屋﨑　楓

昔から全ったく変わらぬ遊び声タンクトップで走ったあの日
おきに出てせいげん守って魚つる子供の魚はつっちゃだめだよ
この季節ついに始まるてこ踊い羽島の夜がにぎわう夜に
友達といっしょにあるいた潮の道夕やけに向けて足をはやめる
薩摩藩海を渡って未知の世界出港場所はここ羽島から
ふるさとの太鼓の音に耳すます引き継がれゆくみんなの思い
帰りぎわ鼻歌歌う一本道におってくるぞ母のカレーが
羽島から旅立っていった留学生私もいつかは彼らのように
この海を夢見て渡った十九人留学生が作ったみんなの未来
なすの牛きゅうりの馬で里帰り先祖の想いつどい集まる
桜島降りそそぐ灰目にからむ我らの誇るたくましい山
幼い日君と見つめた茜空忘れられない忘れたくない
聞こえてる虫の鳴き声風の音近所の人が会話する声

いちき串木野市立羽島中学校一年　入枝　蓮
いちき串木野市立羽島中学校一年　内山　翔太
いちき串木野市立羽島中学校一年　坂口　陸暉
いちき串木野市立羽島中学校一年　福薗　蓮児
いちき串木野市立羽島中学校一年　堀切　朝陽
いちき串木野市立羽島中学校二年　中島　紅
いちき串木野市立羽島中学校二年　下永田　星七
いちき串木野市立羽島中学校二年　黒木　紗耶
いちき串木野市立羽島中学校三年　新村　萌華
姶良市立帖佐中学校二年　松元　晴一
姶良市立帖佐中学校二年　井手口　暖
姶良市立帖佐中学校二年　田中　奈々
姶良市立帖佐中学校二年　福盛　仁冴

夕やけの空を見上げて思い出す幼きころの君への想い

川沿いでダジャレ言い合い肌寒い川とダジャレのどちらのせいか？

ふるさとの懐かしき空に星の海数多の星はあの日の思い出

懐かしの土を踏んでは思ひ出すここの夕焼け今も変わらず

昔とはみえる景色もちがうけど思い出のこるぼくのふるさと

ふるさとで友と仲良く乱打からはじめる部活は庭球部かな

梅雨の間の晴れた日の夜田んぼ行き水辺で光るホタル眺める

街に出てふとした瞬間うかぶのは笑顔のつきないふるさとの町

思い出す辛いときほどふるさとに戻りたくなるその瞬間に

入道雲山より高く見下ろして田んぼの水面夏色染まる

思い出す友や親の声永遠に全ては心に止めて歩こう

おかえりとにっこりほほえむ人がいる我の心はとても温まる

見る景色一日ごとに変化して同じ景色は二度と見れない

姶良市立帖佐中学校二年　堂路　星七

姶良市立帖佐中学校二年　森　加璃菜

姶良市立帖佐中学校二年　山口　秀

姶良市立帖佐中学校二年　松崎　杏香

姶良市立帖佐中学校二年　蓬原　志悠

姶良市立帖佐中学校二年　竹之内　尋嗣

姶良市立帖佐中学校二年　上園　凜

姶良市立帖佐中学校二年　林　遼河

姶良市立帖佐中学校二年　川崎　月綺

姶良市立帖佐中学校二年　小林　千暖

姶良市立帖佐中学校二年　田中　未来

姶良市立帖佐中学校二年　中村　琴音

姶良市立帖佐中学校二年　小川　みなみ

通学路みなれた景色ふり返るそばにはいつもやさしい友が
ふるさとが小さく見える前よりもいつもの道もこれで最後
せせらぐ川二度と戻れぬ過去の日の父との釣り場母の夕食
懐かしきあの日あの時君の顔いつまで待てばまた会えるのか
空に虹遠く見あげたあの空に父母の声思い出される
僕たちの帰るところはどこだろう誰かが僕を待っているかな
帰りたいそう思う時はつらい時でも帰らないと決めたあの日
れいめいの地を飛び出した彼らたちいどんだことは歴史に残る
串木野のマグロはうまい夢の町ふるさと思う古郷の味
浜競馬馬が競争迫力があってすごいないちき串木野
おぎおんさ山おして走る町ひびく大だいこの音にみんなおどろく
花冠祭みんなの思い一つにし重い地車ひいて歩く
浜競馬馬が走るよ砂浜をすごいはくりょくいちき串木野

姶良市立帖佐中学校二年　竹中　蓮拓
姶良市立帖佐中学校二年　長崎　花音
姶良市立帖佐中学校二年　若松　駿
姶良市立帖佐中学校二年　川上　武透
姶良市立帖佐中学校二年　篠原　茉優
姶良市立帖佐中学校二年　椅山　実利
姶良市立帖佐中学校二年　山之内　美結
いちき串木野市立生冠中学校一年　中村　佑歩
いちき串木野市立生冠中学校一年　田島　翔太
いちき串木野市立生冠中学校二年　砂坂　健太
いちき串木野市立生冠中学校二年　谷村　拓哉
いちき串木野市立生冠中学校二年　中野　瑠七
いちき串木野市立生冠中学校二年　砂坂　康太

徐福への感謝を伝える花冠祭今年の豊作祈りを胸に
いちき串木野市立生冠中学校二年　内田　詩

朝起きて家を出てから山を見て堂々として立つ徐福像
いちき串木野市立生冠中学校二年　佐藤　孝則

羽島から思い背負って英国へ彼らに続け薩摩スチューデント
いちき串木野市立生冠中学校三年　有川　直輝

羽島の海眺める僕と留学生海から感じる維新の息吹
いちき串木野市立生冠中学校三年　木ノ下　貴央

ポンカレーマグロラーメン浜競馬見所たくさんいちき串木野
いちき串木野市立生冠中学校三年　西　勘太

優しさや四季で彩る森の色元気あふれるかんむりだけに
いちき串木野市立生冠中学校三年　山内　凜

中学校英語の勉強はじまったみんな教科書ながめている
いちき串木野市立串木野中学校一年　浮邉　莉音

卓球は玉の動きを見つづけて切るかスマッシュすばやく判断
いちき串木野市立串木野中学校一年　有村　亘平

夏の夜天川のような長いれつみんなで踊ろうさのさ踊り
いちき串木野市立串木野中学校一年　善　はるな

窓の向こう澄(す)み行(ゆ)く空はどこまでも私のまちが夜色に染まる
いちき串木野市立串木野中学校二年　船蔵　朱花

龍が舞い紅葉と山で染まる日にシャンシャンシャンと鳴り続く鈴
いちき串木野市立串木野中学校二年　松比良　澪華

虫の声聞こえてくるよ帰り道おつかれさまと言われてるよう
いちき串木野市立串木野中学校二年　隈元　諒太

夕焼けに染まった空を見上げると流れる雲と小さな鳥と
いちき串木野市立串木野中学校二年　内原　心花

かばんを賭けジャンケンポンと勝負をし勝ったら軽く負けたら重く

おれんじの空を見ながら共にする重いカバンと重い足どり

照島の海岸走る浜けい馬馬と海が輝いている

先輩の流した涙かみしめて共に戦う二年のわたし

照島の海岸走る馬たちよつかれながらもがんばってるね

英雄の渡った世界広き海彼らが拓いた羽島からの道

帰り道汗ふきとばし手を振ったなつかしい道なつかしい夏

アンカーはみんなのおもい持ちながらさいごまで走り切ろうゴールへ

暑い夏部活終わりの帰り道夕日が照らすたくさんの汗

友達と長い道のり帰る日々それをはげます明るい夕日

願いこめ鳥居に投げるいしころに応援の声照島の夏

せみのこえ聞くたびいつも思い出す山で友達としたかくれんぼ

セミの声朝から聞こえる夏の声ふと立ち止まり耳をすませる

いちき串木野市立串木野中学校二年　中村　瑠似

いちき串木野市立串木野中学校二年　竹下　優那

いちき串木野市立串木野中学校二年　仮屋　結菜

いちき串木野市立串木野中学校二年　川口　桃華

いちき串木野市立串木野中学校二年　安田　結翔

いちき串木野市立串木野中学校二年　竹下　敬伽

いちき串木野市立串木野中学校二年　中村　ちひろ

いちき串木野市立串木野中学校二年　川添　翔

いちき串木野市立串木野中学校二年　宇都　慎吾

いちき串木野市立串木野中学校二年　上野　隼太郎

いちき串木野市立串木野中学校二年　神﨑　歩花

いちき串木野市立串木野中学校二年　西田　晴菜

いちき串木野市立串木野中学校二年　久木野　そよ

三号線夕日に照らされ進んでいく重いかばんと夏の夕暮れ

夕暮れにいつもの道といつもの友達前に向かって照らされている

朝日の中歩き出したら友達が光を反射し輝いている

夕暮れと歩いて帰るこの道を踊る影達弾むおしゃべり

燃える空私の心にリンクするやる気に満ちて夏の始まり

帰り道ふと空見ると赤い雲雲が夕日に照らされている

風とともに花火の音を聞きながら読む手が進む本と私の一時

この町は気持ち良い風が吹いている静かできれいな美しい町

きらきらと輝く海に船浮かぶマグロをとりにいざ出航

六月燈燈ろうたちが輝いて見る人たちの心も照らす

反省会うつむき歩く帰宅途中みかん色夕日顔あげさせる

父さんと焼酎片手に語り合うそんな夢見る今日のこの日

ふるさと山の向こうの夕焼けを家族みんなで見てた夕方

いちき串木野市立串木野中学校二年　下迫田　梨央

いちき串木野市立串木野中学校二年　平　優斗

いちき串木野市立串木野中学校二年　神薗　佑音

いちき串木野市立串木野中学校二年　木塲　凜乃

いちき串木野市立串木野中学校二年　長友　捺樹

いちき串木野市立串木野中学校二年　上山　海優

いちき串木野市立串木野中学校三年　後藤　彩花

いちき串木野市立串木野中学校三年　東郷　修吾

いちき串木野市立串木野中学校三年　山本　達也

いちき串木野市立串木野中学校三年　塚田　愛子

いちき串木野市立串木野中学校三年　長友　綾香

いちき串木野市立串木野中学校三年　中野　和美

いちき串木野市立串木野中学校三年　栫　啓介

家路にて胸にひろがる潮のかおり海の近さを感じる毎日

浜競馬みんなの声を背中にしひたすら前へ駆ける馬達

串木野の海をかけてく馬たちよ思いをのせて走っていけ

こんにちは絵の具のような濃い色で空を染めてく真っ赤な夕日

いちき串木野市立串木野中学校三年　鈴木　菜羽

いちき串木野市立串木野中学校三年　田中　怜華

いちき串木野市立串木野中学校三年　塚田　葵

いちき串木野市立串木野中学校三年　野中　凜花

高校生の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

ただいまのその一言で笑う母僕の原点ここにあるんだ

鹿児島情報高等学校二年　久冨木　純

【市長賞】

いつからかこわがっていた闘牛が夢中になって家族になった

学校法人神村学園高等部二年　池川　葵

【県歌人協会賞】

喜界島昔の名前は鬼ヶ島鬼さえ喜ぶ島でありたい

県立喜界高等学校二年　濵川　光平

【選者賞】

町内を踊り笑うは音符たち泳ぐ豆腐と鍋を持つ母

県立鹿児島南高等学校二年　大岩根　佑日

【教育長賞】

「おかえり」と言う人のいる暖かさかみしめながら「ただいま」を言う

県立加治木高等学校一年　山口　麗

【南日本新聞社賞】

黒潮のとどろく海に日はのぼり一本釣りへと出船は続く

学校法人神村学園高等部二年　杉本　海梨

【特　選】

実家にね帰ってきたら大号泣泣いてしまってそして熟睡

朝花で始まり最後は六調でずっと受け継ぐ島人の宝

神童と言われてすぐに調子に乗り気がつく頃にはスタンド応援

さとうきび風にうたれても立ちあがるそんなあなたの姿を追って

放課後に君に誘われ帰り道ぎこちない距離影がうつし出す

ふるさとは潮騒香る枕崎工場（こうば）のけむりにかつお節香る

寝坊して遅刻ギリギリ走る朝三号線の信号長し

荷づくりをしつつ見上げた満月は見えるだろうか故郷の母にも

伸び伸びと白くひかめくセーラーにあの日の影がふと映り込み

なつかしい生まれ育ったあの町に忘れたおもいで取りに帰ろう

「おかえり」と優しい声がふってくるそれが私の誇るふるさと

オレンジの盆ちょうちんに照らされて平成最後の夏が始まる

県立南大隅高等学校一年　岩﨑　保徳

県立喜界高等学校二年　嘉村　美里

県立喜界高等学校二年　米田　直矢

県立喜界高等学校三年　竹下　耕大

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　橋本　壮馬

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　濵田　智聡

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　内村　春樹

県立鹿児島南高等学校二年　窪園　真子

県立鶴丸高等学校一年　満留　佳奈

学校法人神村学園高等部一年　坂元　真心

学校法人神村学園高等部一年　東條　真歩

学校法人神村学園高等部二年　松田　美羽

二人きり夕日に染まる帰り道あなたへ告げた「好き」の一言
学校法人神村学園高等部二年　川原　華乃

島思う出航の音を聞くたびにまた夢叶えて帰ってきますと
学校法人神村学園高等部二年　具伊　颯薫

あっ海だ帰ってきたよと伝えてるわが街走るおれんじ鉄道
学校法人神村学園高等部三年　松﨑　愛子

ふるさとはひとのかずだけあたたかくうごかずずっとそこでまってる
県立串木野高等学校一年　松﨑　胡桃

教室に聞こえてくるよ船の音ふるさと感じるこの一瞬
県立串木野高等学校二年　前田　亜彩美

緑ある田の中育つ稲の葉は風になびいてサラサラ動く
県立串木野高等学校二年　渡　愛鈴

【入　選】

車窓から遠くに望む桜島広き裾野にそびゆる頂
県立加治木高等学校一年　中野　ゆらら

都会には唯一勝てることがある道路で寝れるここ喜界島
県立喜界高等学校二年　冨　悠喜

寒い冬こたつの中で温まる親父のギャグでまた寒くなる
県立喜界高等学校二年　堀口　良太

弟にとりにいこうと頼まれるだって私はクワガタの女神
県立喜界高等学校二年　浜岡　暖

オオゴマダラつい手を伸ばすその姿しかし触れぬ魅惑の蝶々
県立喜界高等学校三年　重信　祐奈

ジュース取り冷蔵庫の戸見つめながら私も入りたいと考える夏
県立喜界高等学校三年　森元　さくら

梅雨時期の灰色の空に鳴り響くアカショウビンの美しい声

県立喜界高等学校三年　川畑　誠也

この地より大きな一歩を踏み出した未来を変えた一艘の舟

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　中村　匠市

インターホン鳴って開けたら宅急便一緒に届いたふるさとのかおり

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　竹下　実来

宙に見る煩く鳴くその蝉の音と陽の降る里に置いた思い出

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　安達　優志朗

畦道を走りぬけてく子どもらがあの日の道にその背が映る

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　濵砂　海羽

夏風にわずかに混じる硫黄の香暑い熱いと揺らぐ帰り路

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　山下　穂菜美

秘密道ビルのすき間をかけ抜けた今では狭き僕らの青春

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　永尾　弦喜

ふるさとは人もいないしお店もない何もないけどお茶はおいしい

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　上木原　岳斗

学び舎の仲間と絆結ぶのはさざめく波の照島の海

学校法人神村学園高等部一年　井坂　夏姫

稚児踊りいっぱい練習したことを竹田の森でチンチンドンドン

学校法人神村学園高等部一年　永瀬　愛

万羽鶴出水の空に羽ばたいた私の願いとともに飛んでけ

学校法人神村学園高等部二年　紫尾　舞桜

せっぺとべみんなドロドロドロだらけ今年もいねがほうさくです

学校法人神村学園高等部二年　嘉陽　龍

父母のつくるみかんは花咲かせ香り広げて私を待つよ

学校法人神村学園高等部二年　福永　星香

向日葵の大輪咲かすその強さいつも変わらぬ母の愛想う　　学校法人神村学園高等部二年　近藤　千寛

すがすがしい吹上浜の波際へゆりかごのように満ちたり引いたり　　学校法人神村学園高等部二年　寺田　佳小里

空見上げにぎわう声と大花火静かな街が明りをともす　　学校法人神村学園高等部三年　柳川　愛唯

牧場を静かにつつむ深みどり山に響く牛と祖父の声　　学校法人神村学園高等部三年　田代　月乃

ふるさとに正義のヒーローいるんだよその人はきっと自分のそばにいる　　県立串木野高等学校一年　木塲　優亜

君の頬沈む夕日の紅染まる長崎鼻の灯台の下　　県立串木野高等学校二年　屋久　紅葉

串木野の自然あふれる西岳に遠く見守る徐福像かな　　県立串木野高等学校二年　竹添　夏生

照島の蒼（あお）に輝く水平線汽笛響かせ魚は跳ねる　　県立串木野高等学校二年　中村　梨乃

【佳　作】

夏灯あの日に僕を見送ってまたこの土を踏む僕にほほえむ　　県立加治木高等学校二年　桑原　ひなた

疲れ果て視線を落とし目に入る雄川に映るオレンジの街　　県立南大隅高等学校一年　宮川　佳祐

海遊びかいもん見ながらながめてる私も一緒に海動かしたい　　県立南大隅高等学校一年　上之園　美帆

帰り道ふるさと思い会話する夕日と海のきれいなすがた　　県立南大隅高等学校一年　小脇　綾乃

放課後の静まりかえった部室には鼻に響くは墨のかおりが

海と空二つの青にはさまれて緑が映える豊かな自然

小クワガタ立派な角と黒のボディー飛ぶ羽の音スズムシのごとし

夏の夜押しては引いてく波を見てあなたにしたいこの駆け引き

離島でも明るくにぎやかなこの島で今年も始まる楽しい行事

夏の夜空いっぱいに光る星誰とみようか天の川

真夏日にサトウキビを刈る父の背中家に帰ると酔っ払い親父

サトウキビ伐採中は汗水ふきだす黒糖できると笑顔がこぼれる

台風が島に運んだ暴風雨それでも耐えた島のさとうきび

夏の朝熱いサドルにまたがってあふれる汗と一日への期待

鰻池スメに入れればふかしいも西郷どんの当時のお風呂

桜島昔の時代知っている僕らは時代を作っている

朝明けの鳥の鳴く声夏空に響きわたるはせせらぎの風

県立南大隅高等学校一年　成尾　茉優

県立南大隅高等学校一年　横山　あや

県立喜界高等学校二年　津田　海俊

県立喜界高等学校二年　高橋　結芽

県立喜界高等学校二年　浪島　未喜

県立喜界高等学校三年　奥野　美々

県立喜界高等学校三年　豊　野乃香

県立喜界高等学校三年　伊地知　章

県立喜界高等学校三年　辰己　義也

県立喜界高等学校三年　和田　竣輔

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　迫　匠

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　堂園　亜生

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　徳永　勇海

ある日見た夕日の色とあの日々はどんな色でも絵描けない

ふるさとの景色眺めてまたいつか短歌詠む日がくるのだろうか

久しぶりこの環境とこの空気やっぱりここがぼくのふるさと

揺れる稲土の匂いと青い風ああ恋しいなわがふるさとよ

ふと思う帰ると落ち着くふるさとは今も昔と変わらんよ

どこだろうふるさとの意味ふと思う自分の帰る居場所とは

離れても戻ってきてもあの場所は何も言わずにそこにいる

見ためこそ変わってしまえどなにかしら心ひかれるふるさとの地よ

友だちも景色もすべて変わらないこれがふるさと私の故郷

苦しいときふと思い出すあの場所は心を少し軽くしてくれる

夕ぐれの過ぎゆく子どもの声を聞き今だにうかぶ緑の景色

我のいる闇を照らせしその光いざ降臨せよ古里魂

ふるさとの風景におうあの場所の懐かし記憶昔の自分

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　中村　愛梨

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　黒田　リュウガ

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　岩坪　翔輝

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　飯尾　愛海

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　林　涼翔

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　野口　海音

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　鈴木　伶昇

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　赤﨑　圭佑

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　岡元　あずみ

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　濱田　聖良

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　満田　恵理奈

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　篠田　将裕

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　横山　勇斗

生後からずっと育ったこの町で遊んだ遊具も今は小さい
田に映る父と僕の影法師笑顔につられなびく木々かな
ふるさとで思い出話懐かしむ友と語った夢を追う
夏の日差し川とせみ鳴る音つかみ耳の奥まで懐しむ季節
ふるさとの風や匂いの温かさ二つとはないこの安心感
線香のにおいに祖父の顔浮かぶ在りし日の記憶戻れないとき
夕焼けに染む街並に影五つ我が家へ帰る手をつなぎつつ
初盆にあなたの好きなそうめんをそなえてながめるなつかしい笑み
なつかしの家に帰れば灰景色町に広がる一種の芸術
おかえりと揺れる稲穂と笑う祖母懐しい香飛ぶ赤とんぼ
旧友と必死で駆けた桜島蘇える空襷の想い
親友と別れたあの日思い出し一人で歩くふるさとの道
ふるさとを離れてみると思い出す我が家の味と並木の道を

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　古里　茉樹
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　沖田　龍之丞
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　下園　青空
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　廣田　大徳
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　田中　廉人
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　川村　麻鈴
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　早見　璃香
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　芋高　舞
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　安岡　諒
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　松田　怜奈
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　有嶋　泰治
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　園田　妃奈
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　井上　佳音

おかえりと私を呼ぶ声暖かく夕やけの赤街を染めてく

帰って来た時景色が少し変わっても代わることない家族のぬくもり

いない間に昔の家は変わり果て記憶の中の景色は何処（いずこ）

夕焼けに照らされていた公園に繋がれていた二つの影

日が落ちて一人で歩く帰り道通りすぎてく母校の思い出

変わる人変わる風景変わる道心の中では消えぬ思い出

ふるさとのサッカーをしたあの公園セミコオロギの鳴き声響く

夕暮れに消えゆく夏のあわい恋今でも私のとなりの恋人

夏帽子君と過ごした思い出は涼しい風とさっと消えゆく

ふるさとの友達の君と見る夕日同じ夕日を恋人の君と

帰るたび新しい家ふえていく大好き熊本ぼくのふるさと

茶畑の間を走った帰り道あの頃の猫まだ元気かな

日がしずむ早く帰れとせみの声あの空き地には新築の家

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校一年　桑鶴　朋奈

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　菊永　有花

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　松尾　風香

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　森　紗彩

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　坂ノ下　我久

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　金竹　史登

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　日髙　竜馬

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　湯田　龍也

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　砂坂　瑞紀

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　俣木　謙伸

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　西山　明輝

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　水橋　亮太

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　山元　彬大

湖に島が浮かぶは我がふるさとかつての我が家はいまはなく

再会の時を待たれし水流は緩く激しく緑絶やさず

田舎だね嫌だったはずのふるさとは離れて気づく思い出の場所

みわたせば青い海と白い雲放課後友と思い出作り

電車おり周りを見れば雨あがり水たまりに映る大好きな町

まどのそとながめるたびにふとおもうはるかとおくのわたしのふるさと

昔から慣れ親しんだ我が町の雰囲気こそがふるさとのよさ

ふとよぎる下校時に見た緑色なつかしい景色が少し切ない

なつかしいにおいのする町ふるさとは心もからだもあったかくなる

大集合夏の地元のお祭りはいつでも戻れる昔のように

さわやかに風ふきわたるふるさとの清き川辺の縁恋しき

観覧車自分のふるさと全部見え楽しき日々が忘れられない

日に焼けて白い歯みせてわらう君南の島のきらめく星粒

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校二年　下脇　圭登
県立鹿児島南高等学校一年　小田　愛美
学校法人神村学園高等部一年　齊藤　夏月
学校法人神村学園高等部一年　坂田　遥風
学校法人神村学園高等部一年　福岡　里湖
学校法人神村学園高等部一年　中原　瑠璃夏
学校法人神村学園高等部一年　下野　くるみ
学校法人神村学園高等部一年　杉元　美結
学校法人神村学園高等部一年　松村　采音
学校法人神村学園高等部一年　宇野　夏妃
学校法人神村学園高等部一年　和田　ことの
学校法人神村学園高等部一年　久保　彩夏
学校法人神村学園高等部一年　日高　百恵

鳥たちのおかしな鳴き声前よりも近く感じる今の私

耳すませかすかな音をたどりては何かいたのか揺れる葉ひとつ

旧友と思い出つまった草っ原いまはもうない誰かのおうち

海からの汽笛聴こえる夕ぐれに何か知らせるメッセージかな

なつかしい幼き日々の思い出があさやけいろの空にひろがる

ふるさとをなつかしく感じるこの風はあの日のことを思いださせる

シャボン玉虫の音風の音島唄も皆のすがたも届けておくれ

ようちえんきおくがさだかあのときは八年経ってまさかのであい

目を細め空を見上げた帰り道青と混ざってとけてく夕日

今日もまた幼なじみと帰る田んぼ道夕日に照らされる二人の背中

ふるさとに帰ればそこになつかしの遊んだ友人遊んだ場所

ただいまと帰るといつもお帰りと優しいこの場所が私のふるさと

琵琶湖とは日本一のみずうみだ青いみずうみが輝いている

学校法人神村学園高等部一年　田中　瀬莉奈

学校法人神村学園高等部一年　宇藤　彩華

学校法人神村学園高等部一年　大迫　万侑

学校法人神村学園高等部一年　川畑　美樹

学校法人神村学園高等部一年　羽山　歩果

学校法人神村学園高等部一年　西村　美月

学校法人神村学園高等部一年　有川　雅

学校法人神村学園高等部一年　横道　彩愛

学校法人神村学園高等部一年　宮﨑　梨央

学校法人神村学園高等部一年　町屋　すみれ

学校法人神村学園高等部一年　坂口　朋加

学校法人神村学園高等部一年　小田　愛海

学校法人神村学園高等部一年　西上原　聖菜

風が吹く妙円寺参り神社まで歩き疲れたゴールの先は

つかの間に出来たこの距離埋めるのは些細な言葉と貴方の笑顔

おぎおんさぁ太鼓の音が鳴り響く伝統あふれる市来の町

まくらざきまちじゅうへとひろがったかつおのにおい伝統の町

この町にたくさんつまった青い春あの日のオレンジ沈む夕焼け

赤土で思い出すのは長島のおいしく育つじゃがいも畑

歴史あるキリシタンの地天草に子どもを思いサンタがつどう

甑島ぷかぷか浮かび海を見て水中めがねで魚を見てる

さつまあげじどりにおんせんかっぱいて川内わっぜ良いとこだせん

うんまかなぁ祖母の作ったさつま汁みんなで守る鹿児島のあじ

帰り道夕方六時のかたわれどき給水塔が金に輝く

皇徳寺ブルーベリーの道歩き友と語った部活の帰り

鮎はねる川内川に赤い橋くだものあふれる東郷町

学校法人神村学園高等部一年　帖地　香音

学校法人神村学園高等部一年　福地　夏菜

学校法人神村学園高等部一年　水口　美侑

学校法人神村学園高等部一年　鶴田　葉月

学校法人神村学園高等部二年　中馬　杏菜

学校法人神村学園高等部二年　増田　乃愛

学校法人神村学園高等部二年　岡野　加奈子

学校法人神村学園高等部二年　内山　百恵

学校法人神村学園高等部二年　下薗　実莉

学校法人神村学園高等部二年　小野原　知世

学校法人神村学園高等部二年　有村　梨歩

学校法人神村学園高等部二年　月足　梨沙

学校法人神村学園高等部二年　小原　千弥

挨拶や自然の音が聞こえる所風車がある町牟礼岡

中学の坂を登って朝日見に前とは違う大人の景色

懐しい風になびくさとうきび甘い匂いに包まれていく

吹上の光輝く太陽に私の夢は照らし続ける

夕暮れに染まる背中を追いかけて隣を歩くここはふるさと

照島の馬が砂浜駈けぬける地元がほこる浜けいば

見渡せばあたり一面緑染まりかすかに香うお茶畑

北薩の輝き昇る朝日の出竹の笹の葉艶増し光る

日の出まえ遠くで響くツルの声朝日と共に飛び立つ親子

思い出がいっぱい詰まったふるさとに早く帰りたい何て言えない

なつかしいじゃけんたいぎい広島弁優しい声母との電話

懐かしい家に帰ると犬の声母の手料理肥後の町なみ

佐賀県は知名度低くみな知らぬだけどたくさん良いとこあるよ

学校法人神村学園高等部二年　新村　紗季

学校法人神村学園高等部二年　榊原　はるか

学校法人神村学園高等部二年　向島　健輝

学校法人神村学園高等部二年　東　優花

学校法人神村学園高等部二年　岡部　和奏

学校法人神村学園高等部二年　井亀　真央

学校法人神村学園高等部二年　原口　美桃

学校法人神村学園高等部二年　川平　成香

学校法人神村学園高等部二年　花木　茜

学校法人神村学園高等部二年　塚田　亜希子

学校法人神村学園高等部二年　豊村　文香

学校法人神村学園高等部二年　氏家　七海

学校法人神村学園高等部二年　溝上　可夏

それぞれの場所で活躍中学の友小さな町から大きな舞台へ
夢実現するためここで頑張って好きになったよここ串木野を
和田の和は和らぐ和むあたたかいそんなふるさと未来につづけ
帰り道空を見上げて写真とるピンクの空がインスタ映えよ
朝起きてセミの音響く夏の朝夏限定の目覚まし時計
大きくて日本一の大楠はみんなを見守る蒲生のシンボル
とびこんだサンゴと魚きれいだな日焼けでヒリヒリ逆パンダだ
桜島見ると遠泳おもいだすブルーの海に浮かぶキャップ
お盆の日爆竹響きドーイドイご先祖様を見送ってく日
球磨川の流れる水に光るアユここが私の自慢のふるさと
ふんわりと香るなたねの流れと共に今も変わらぬ我が蒲生郷
空見れば太陽照らされ桜島季節が分かる灰のにおい
西郷像前から見ると仁王立ち角度変えれば右足うしろ

学校法人神村学園高等部二年　牛鼻　花鈴
学校法人神村学園高等部二年　大石　杏莉
学校法人神村学園高等部三年　吉田　友輝未
学校法人神村学園高等部三年　石原　樹里
学校法人神村学園高等部三年　濵田　理彩子
学校法人神村学園高等部三年　伊津野　はる香
学校法人神村学園高等部三年　岩元　愛音
学校法人神村学園高等部三年　佐藤　優菜
学校法人神村学園高等部三年　川久保　樹里
学校法人神村学園高等部三年　藤本　芽生
学校法人神村学園高等部三年　池田　唯乃
学校法人神村学園高等部三年　カスティロ　遥
学校法人神村学園高等部三年　島木　愛莉

男たちむさくるしさを全開で声あげながら引く大綱を

真夜中の星がきれいな寺山は月の光でべっぴんさんだ

吹上のウミガメ守るパトロール続けることで生まれる命

梅雨前の暗闇光るホタルたち夜空の星と同じきれいさ

干した服車道の脇にも火山灰外出すれば頭上が地獄

さくらみてふとおもいかえすわれのさとこころうるわすあたたかなひかり

光さし微笑むような花ふぶき山里と共に我癒えるなり

せみの音に合わせて響くかねの音文化をつなぐ川上踊り

せみのこえ聞いて昼飯食べて部活行き練習を重ねて明日へかける

万緑な茶畑広がる我が故郷さわやかな色心ゆたかに

かんかんと照りつく青い空鳥も飛ぶよみどりの山奥へ海をこしてゆく

町歩きかすかにかおる海風はなぜか落ちつくふるさとのかおり

暑い中入道雲が壮大に自分の気持ちも高まりそうだ

学校法人神村学園高等部三年　中原　誓哉

学校法人神村学園高等部三年　上野　弘人

学校法人神村学園高等部三年　宮本　花音

学校法人神村学園高等部三年　山迫　捺稀

学校法人神村学園高等部三年　中原　優介

学校法人神村学園高等部三年　岩元　あずさ

県立串木野高等学校一年　松下　創思

県立串木野高等学校一年　橋口　桃花

県立串木野高等学校一年　佐藤　宏海

県立串木野高等学校一年　大井　虎之介

県立串木野高等学校一年　赤﨑　優香

県立串木野高等学校一年　塚田　くるみ

県立串木野高等学校一年　坂下　美紗

涼しげな夜風にあたり見上げれば輝く星に心和らぐ

世界には色んな国があるけれど故郷が平和な日本でよかった

まちなかをきよく流れる砂浜の海水のせいめいをうみへとどける

深緑の空に映える山の色小鳥のさえずり私をいやす

西岳から市民見守る徐福像やっぱりここが好きな場所

さのさ踊り愉快な音色響かせて皆踊り出す輪になって

さんぽ道人との会話潮の風心おちつくいちき串木野

さつまあげみなとにあがるさかなたちこれがわたしのふるさとのあじ

帰り道オレンジ染まる横顔の心揺らいだ思い出の町

お祭りでマグロラーメンロにして串木野名物絶品の味

せみが鳴く冠岳に登りては海にきれいな夕やけ沈む

砂浜と真っ赤な夕日と青い海家から見える照島海岸

波の音てりつける異な太陽に泳ぎざわめく高校の夏

県立串木野高等学校一年　大迫　芽実

県立串木野高等学校一年　井上　七海

県立串木野高等学校一年　飯野　七海

県立串木野高等学校一年　有村　理惠

県立串木野高等学校二年　松﨑　愛弥

県立串木野高等学校二年　國料　妃奈

県立串木野高等学校二年　西田　龍星

県立串木野高等学校二年　榎園　光

県立串木野高等学校二年　尾立　由理菜

県立串木野高等学校二年　村上　凱斗

県立串木野高等学校二年　宇都　優理

県立串木野高等学校二年　宮田　綾乃

県立串木野高等学校二年　軸屋　豪

ボクの里木々おいしげる静かな地命継ぐ音遠くで聞こえる

帰り道耳をすませば風鈴が風と重なり音響かせる

たくさんの山と海に囲まれる自然豊かな串木野の町

県立串木野高等学校二年　迫　晴菜

県立串木野高等学校二年　日髙　めぐり

県立串木野高等学校二年　小段　那奈

一般の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会長賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

風通る初夏の棚田は一枚の織物のごと青く揺れをり

鹿児島市　恒益　節子

【市長賞】

ビロウ樹に浜風さわぐ羽島崎海は潮目の果てより暮るる

いちき串木野市　中屋　清康

【県歌人協会賞】

放課後のつづきのごとく旧友ら集ひて里の訛やさしき

鹿児島市　中間　郁子

【選者賞】

境内に梅雨（つゆ）の黒雲風呼んで絵馬の軍勢カラカラ騒ぐ

薩摩川内市　萬造寺　捷

【教育長賞】

ジーゼル音引き摺り電車の遠ざかるふるさとの駅はいま無人駅

鹿児島市　油田　重隆

【南日本新聞社賞】

水張田に地鳴りのごとくかはづ啼き平成終る夏となりたり

姶良市　塩満　曉洋

【特　選】

さつま弁美しきかな母さんが父に仕へし敬語の数多　　薩摩川内市　石神　陽子

ちりめんが沖に来た来た船を出せ艫綱解けよぐずぐずすんな　　鹿児島市　今里　修

照島に農夫ら集う浜競馬道草の馬にも声援のわく　　日置市　坂口　勝美

返納しほつと見上ぐる中天に母とかぞへし七星光る　　霧島市　濱田　キミ子

この夏の半夏団子を焼く母の手の弾む日よ風の清けし　　霧島市　有川　陸子

精霊のさざめきと聞く大樟の梢の風よふるさとは夏　　南さつま市　江籠　みはる

かっぱう着を脱ぎて晴着の春の日の母は桜に染まり匂へる　　霧島市　松永　由美子

茶摘みする麦藁帽が移動する窓を開ければ香り漂う　　鹿児島市　岩城　正英

肩ならべ明日は旅立つ妹を串木野港の夕陽にたくす　　いちき串木野市　前田　貴子

ボール蹴りに遊べる子らの散りゆきて暑さじりじり四つ辻に来ぬ　　鹿児島市　中村　孝子

奉納の剣舞まふ脚地を蹴りて切先鋭く夏の陽を斬る　　霧島市　窪田　久子

転勤族の一生を終へてふるさとのつひの棲家の安らぎにをり　　霧島市　若松　奈々子

うちわ持つ上がりかまちの母に吹く昭和なかばの軽やかな風　いちき串木野市　奥吉　志代子

波際にはしゃぐ足跡さらわれて遠のく声と残る砂山　いちき串木野市　新名主　一哉

黎明に薩摩スチューデント羽島より旅立ちし時歌を残せり　鹿児島市　伊地知　典子

石段につなぐ祖父の手憶ひつつ可愛山稜の大楠に触る　姶良市　鶴　晴美

産土のやしろの杜に鳴くカラスさつまなまりの少しあるべし　鹿屋市　白井　森芳

【入　選】

海風にざわざわ歌うアコウの樹家跡守り六十余年　いちき串木野市　有村　孝

遠き日は満腹だった赤いポスト夢も愛をもいっぱい食べた　南九州市　若松　富士子

はつ夏のマイナス・イオン浴びながら素足に歩む弓なりの浜　いちき串木野市　川口　京子

松林ぬけて拡がる海原に真向ひて建つ白蓮の歌碑よ　薩摩川内市　山本　澄子

ドラム缶のかまども大鍋もころがしてあくまき作りの季節は終わり　薩摩川内市　新屋　純子

産土の棚田のよもぎ匂ひ立つ姉より届く碧き草餅　鹿児島市　門松　弘子

外つ国の吾子に送らむ梅干しもらっきょう漬けも夏陽に匂ふ　霧島市　玉川　マリ子

人は皆その　ふるさとを映すよに時間をかけていい顔になる

なつかしき人等の名前は逝去欄に同窓名簿は翻りて届く

しかと肥ゆる土より抜きし夏草の根もとに昨夜（きぞ）の雨匂ひ立つ

羽島崎にれいめいの世を開かむと船出せし若き血潮ほとばしる

みどりと白の半夏生の葉さゆらぎて過去と未来を鮮やかに分く

梅が咲きサワーポメロが香るとき家族総出ではさみを入れる

達人のうしろ姿を凝視して必死にまねるさのさとハンヤ

黄昏て耳に飛び込むさのさ節熱さも忘れ心も踊る

花植うる夫は気さくな人となり里に明るむふれ合ひ農園

鹿児島市　水溜　智美

霧島市　中馬　絅

霧島市　井口　松子

いちき串木野市　有馬　恭子

霧島市　後藤　多喜子

いちき串木野市　紙屋　直道

いちき串木野市　大迫　輝久

いちき串木野市　濵﨑　成人

鹿屋市　鎌田　明子

留学生の部

五千年月日流れる山水はすこぶる佳なり我が中華かな

学校法人神村学園高等部二年　丁　博思

夏迎え星かがやいてきみの目に天の光かあふれる涙

学校法人神村学園専修学校二年　NGUYEN（グエン）　HUONG（フーン）　QUYNH（クイン）

一人だけその道歩いて青い空何もかわらぬ思い出の人

学校法人神村学園専修学校二年　KHONG（コン）　PHUONG（フーン）　TRINH（チン）

母の声清らかな川寂しくてその声を聞く心が叫ぶ

学校法人神村学園専修学校二年　MAI（マイ）　THU（テウ）　HUONG（フーン）

応募校一覧（あいうえお順）

○姶良市
姶良市立帖佐中学校
姶良市立西姶良小学校
鹿児島県立加治木高等学校
○出水市
出水市立出水中学校
○いちき串木野市
いちき串木野市立旭小学校
いちき串木野市立生冠中学校
いちき串木野市立荒川小学校
いちき串木野市立市来中学校
いちき串木野市立冠岳小学校
いちき串木野市立羽島中学校
いちき串木野市立羽島小学校
いちき串木野市立串木野西中学校
いちき串木野市立生福小学校
いちき串木野市立串木野中学校
いちき串木野市立川上小学校
いちき串木野市立照島小学校
いちき串木野市立市来小学校
いちき串木野市立串木野小学校
鹿児島県立串木野高等学校
学校法人神村学園高等部
学校法人神村学園専修学校日本語学科
○指宿市
指宿市立山川小学校
○鹿児島市
鹿児島市立郡山中学校
鹿児島県立鶴丸高等学校
鹿児島県立鹿児島南高等学校
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校
○喜界町
鹿児島県立喜界高等学校
○南大隅町
鹿児島県立南大隅高等学校
○屋久島町
屋久島町立岳南中学校

萬造寺　斎（まんぞうじひとし）明治１９年(１８８６)羽島生れ。

明治３８年(１９０５)１８歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺斎あり」といわれる。
明治４１年(１９０８)２１歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。
東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鴎外を中心として『すばる』が発刊される。
大正２年(１９１３)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き、第二次世界大戦後、歌集『萬造寺斎選集』１０巻が刊行される。
大正７年(１９１８)３１歳のときに郷里に帰る。
昭和３２年(１９５７)7月９日、肺病のため７０歳で亡くなる。
同年１１月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。
昭和３５年(１９６０)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。
歌碑には作家である佐藤春夫選、新村出博士が書いた３首の歌と、友人矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。

羽島崎神社境内にある歌碑

萬造寺斎生誕の地